

第1回 大津市庁舎整備基本計画策定懇話会 議事録（要旨）

日時：令和6年7月18日（木）

16:00～18:10

場所：新館7階特別会議室

- 1 開会
構成員6名出席
- 2 総務部長挨拶
- 3 懇話会構成員紹介、座長・副座長の紹介
- 4 事務局職員の紹介
- 5 懇話会の公開及び傍聴について
原則公開（異議なし）
傍聴人入場（9名）
- 6 意見交換
テーマ：公園と一体となった庁舎のあり方について

○事務局より資料説明

○意見交換

【要点】

（景観・ランドスケープについて）

- 新庁舎は、公園と一体となった庁舎として、緑を活かし良好な景観を形成するとともに、周辺の歴史・文化・自然等と調和したものとする。
- 山と湖の関係性、風の流れ、生物の往来等、地域で育まれた生活文化や自然を取り入れる。

（機能について）

- 親しみやすい、訪れたい、用がなくても立ち寄りたくような、公開性・パブリック性を有する空間・機能とともに、市民の主体的な参加を実現するものとする。
- フェーズフリーの観点から、日常も非常時も利用でき、使いやすい施設とする。
- 公園内の立地を活かし、健康・スポーツの観点から付加価値のある施設とする。
- 周回遅れのトップランナーとして、環境に最大限配慮した施設を目指す。
- 子育て層・親子を中心に、さまざまな世代が利用できる施設を目指す。
- 交通にかかる施策や動向、スポーツ施設の利用等を踏まえ、動線計画や駐車場のあり方を検討する。

（進め方について）

- 市全体のまちづくり、周辺のまちづくり等、広域的な視点を踏まえた、庁舎のあるべき姿

や機能について議論を行う。

- 機能・規模だけでなく、マネージメントの視点からも議論を行う。
- 庁舎における景観・環境に関する取組みを、大津市のまちづくりにも活かす(連動させる)。

【意見】

- ・ 現庁舎はシンボリックなデザインであるが、新庁舎は公園と一体となった庁舎として、どのようなデザインであるべきか、どのような景観を形成すべきか、よく考えたい。
- ・ 現庁舎は、本館・別館・新館に分かれていて利用しづらいと思うが、新庁舎では、これらを改善するとともに、利用しやすくなることで市民に親しまれるものになると良い。
- ・ 市民ワークショップでは、「シンボルとなるものを」という意見も出ているようだが、立地を踏まえ、歴史・文化・自然等、まわりの環境に馴染むデザインが良いのではと考えている。
- ・ 近代化の時代は、「シンボル」を創造する時代であったが、これからの時代は、どういうものを目指すべきか。若い人と年配の人では、同じ「シンボル」でも考え方が異なる。どのように市民の意見を取入れるか、当懇話会は重要な役割を担っている。
- ・ 庁舎の場合、公開性やパブリック性が求められる。近代化の時代は、それらはピロティ等の形として表れていたように思う。現在は、「親しみやすい」や「訪れたい」という感情が生まれるようなものが重要ではないか。その中で、本計画は、公園の中にあることや駅近であること等、条件が整っていることから、その環境を十分に活かしていくべきと考えている。また、その中で、公開性・パブリック性のある機能とはなにか、また、防災時に利用するだけでなく日常的に利用できるような工夫について、今後検討したい。
- ・ 「用がなくても立ち寄り」というのは重要な視点である。役所の窓口としての機能の比重は低下しており、代わりに市民活動等の交流が求められるようになっている。しかも、これまでは、行政が声をかけて市民の参加を求めているが、これからは市民が主体的に参加できる場所・機会が求められている。
- ・ 大津市は、支所が多くある中で、DX化が進み、ネットで申請・コンビニで受領できるようになっており、市役所と支所の役割等を含め、大津市役所のあるべき姿を議論すべきと考えている。また、子育て関連施設の複合化についてはトーンダウンしているようだが、代わりに、健康・スポーツ等に対して果たす役割もあるのではないかな。
- ・ 「公園と一体となった庁舎」というのは最もではなるが、その前提として、周辺のまちづくりをどうしたいのか、もっと言えば、元々あった4つの候補地も含めて、市全体のまちづくりをどうするのかを、市として考えるべきではないか。そうした視点で、大津市にはテーマ設定を行ってもらいたい。
- ・ 敷地設定については、現在の南北に長い敷地では、壁をつくり、西側の環境が悪くなる可能性があるため、整備した後のことを良く考えて、建物のあり方を議論できると良い。
- ・ 県内のさまざまな庁舎整備に携わってきたが、どの庁舎も環境に配慮している。大津市は、他市町に比べて庁舎整備が遅れたが、周回遅れのトップランナーとして、最新の脱炭素やZEB（少なくともZEB ready以上）に積極的に取り組んでももらいたい。
- ・ 周辺のまちづくりについて言えば、京都の国際会館は、もともと皇子山総合公園に建設される話があった。それくらい、この立地や環境が国際的にも評価されていた。そうした意

味でも、この場所につくことをしっかり受け止め議論を進めたい。

- ・ 防災分野では、近年、フェーズフリーという考え方がトレンドとなっており、庁舎整備においても重要である。特に、公園内に立地することは、災害時にも非常に有効である。日常的に気軽に利用されるとともに、災害時には、庁舎と公園が連動し有効に機能するよう検討できると良い。
- ・ 能登半島地震の被災自治体職員にヒアリングを行ったが、災害時は全庁体制で対応するため、部署の再配置や部署を越えてのコミュニケーションが必要であるが、ワンフロアが狭いと対応が難しいと、聞いた。また、高層の建物は移動の負荷がかかることもあり、適正なワンフロア面積を確保し、適正な高さが望ましいと言える。
- ・ また、震災後、被災者はさまざまな手続きのため役所を利用することになるが、いろいろな窓口をまわるのは非常に負担がかかってしまう。ワンストップで手続きができるような窓口のあり方が、通常時から構築できていると良い。
- ・ 公園の東側から現庁舎を見ると、山並みとの調和が感じられる。新庁舎においても、山並みとの調和を大切にし、東側から見た景観に配慮したい。
- ・ 周辺の拠点や資源との接続性についても留意したい。皇子山総合運動公園周辺だけでなく、琵琶湖～山、大津京駅～びわこ浜大津駅等を含めて、これらの要素をどうつなぐのかを考える必要がある。
- ・ ブランチ大津京の脇にある近江神宮外苑公園は、日常的に利用されており、いつも賑わっている。将来、新庁舎が公園と一体的に整備された後の様子が垣間見れるような状況になっている。一方で、それぞれの施設が競合しないように、周辺の人口動態等を踏まえ、役割を分担する、連携する等の検討が必要ではないかと考えている。
- ・ 南側の別所合同宿舎を含めると、三井寺や琵琶湖疏水も近くなることから、広域的な視点から、庁舎や公園のあり方を考える必要がある。
- ・ 公園は、ハードとして整備するだけでなく、使いこなしてなんぼ、マネジメントが重要である。さらに、マネジメントを担う組織を育てていくことも重要である。ハード・ソフト両面で考えるべき。
- ・ 大津市では、公園の管理面積が広く、その多くを大津市公園緑地協会が管理をしているが、このままで良いのかと感じている。これを機に、緑地・公園行政にまで切り込んでいけると良い。
- ・ 健康・スポーツは重要な視点である。現在、民間のスポーツジムが非常に人気で、店舗を増やしている。市民のスポーツ、学校のスポーツ、大人の健康づくりのスポーツ等、考えていかななくてはならない。
- ・ まわりにもたくさん公園がある中で、ここにはどのような公園をつくるのが重要ではないか。他の公園と差別化することで、より利用されるようになるのではないか。また、子育て施設はなくても、どのような機能や環境があれば、子供も安心して遊ばせられるのか議論してはどうか。
- ・ 景観について言えば、庁舎そのもののデザインだけでなく、入り口の場所・設え、広場の有無、駅との関係性等、アクセス動線やミニマムな景観も重要である。
- ・ 現在の国体広場に、高い樹木があり、みどり豊かな空間を形成しており、できれば活かしてもらいたい。ワークショップの意見にも「森の中にあるような…」との意見があったが、

いまある緑を活かす方法を検討してもらいたい。

- ・ 建築レベルの議論となるが、正面玄関は必要か。正面玄関をつくることで、気軽にちょっと立ち寄るという感覚と乖離するように思う。
- ・ みどり豊かな空間の形成については、公園のあり様を都市計画として考える必要がある。
- ・ 周回遅れのトップランナーとして、環境に関しては、できることはなんでも取り入れ、環境を守っていくという姿勢が重要である。公園に隣接した庁舎だからこそ、環境に最大限配慮して整備を行うというテーマも設定できる。具体的には、比叡山の伏流水や太陽光を利用したり、風の流れを活かす等ができないか。また、建築形態について言えば、建物を少し埋めてしまうことも考えられる。いずれにしても、都市・みどり・建物がうまく融合・バランスした議論ができると良い。
- ・ 庁舎の取組だけでなく、大津市全体でいかに環境に配慮したまちづくりを展開するかも重要ではないか。湖岸エリアでマンションの建設が進んでいるが、大津市がエコシティとなるための施策の不十分さを感じている。庁舎整備だけでなく、住宅施策にも影響するような転換点となれば良い。そうした考えが、景観やランドスケープのコンセプトにつながるとう良い。
- ・ 山と湖が近く、きれいな水が流れている環境がある。そういう自然的な要素を活用できると面白いし、ぜひ景観にも取り入れたい。
- ・ マンションが林立しているが、その足元には低層の住宅が残っている。駅から湖岸にかけて、人の歩く流れと風のみちをつくるというのができると良い。
- ・ 山からの風の流れを読むというのはコンセプトとして格好がいいし、まちに対する愛着も生まれるのではないか。湖岸に立地するマンションも、そうした考え方を取入れることで、つながっていく。そうしたまち全体の配置のコンセプトができると、庁舎のゾーニングや建物配置も意味を持つ。
- ・ 市民の動線のことを考えると、どちらが表とも言い切れないし、つくる必要がないとも思う。利用者は、アクセス動線から一番近いエントランス・通用口を使うだろうから、“いかにも”な立派な正面玄関はいらないのかもしれない。
- ・ 具体的なプランニングは、基本設計のプロポーザルで提案を求めれば良いと思うが、適正な高さ、オープンな設え等は与条件として、本懇話会でもよく議論しておきたい。
- ・ 村上先生より、公園と一体となった庁舎や公園マネジメントの事例を挙げていただいたが、庁舎そのものの機能に関する事例もあると良い。ぜひ、是永先生や麻生先生の協力いただきたい。
- ・ 周辺の資源として、三井寺、天皇陵、高校との関係性についても検討が必要。
- ・ 山と湖の関係を強化することで、生物の往来ができ、生態系の保全も期待される。具体的には、生物種の調査を行う必要があるが、印象として、周辺は、二次林のような、人工林から自然林に遷移しているような状況と見受けられる。また、常緑樹主体だと思うが、落葉樹であれば、また対応が違ってくる。周辺の森林をどのようにしていくかという観点も含めて議論が必要となる。
- ・ 山や湖の空気の流れや生態系がリンクするのは面白い。
- ・ 計画地周辺は、大雨が降ると、土砂が流れてくることがある。柳川付近でも、水が出て、湖岸に土砂が流れているようだ。そういう意味では、地形の変わり目に立地していること

もあり、よく検討しなくてはいけない。

- ・ 緑地や下線をたどって、鹿が山から都市部に降りてくることがある。人間だけでなく、動物にも開かれているというのは良いが、実際には被害も生じる。
- ・ 山と湖のつながりが見えてくると、歴史や自然、地域性を感じることができ、市民の関心の高まりも期待できる。歴史を大切にしながら、四季を楽しみ暮らしてきた、という生活文化はシビックプライドの醸成にもつながるし、プロモーションも活かせるのではないか。
- ・ 大津市ではコンパクトプラスネットワークを掲げているが、公共交通を中心としたまちづくりを進めていく中で、駅近立地は非常に良い環境である。車利用が多くなると思うが、公共交通の利用を促進することが大切である。そのためにも、駐車場台数は、戦略的に設定してはどうか。
- ・ 大津市は南北に広く、J Rや京阪でつながっている。完全に公共交通利用というのは難しいが、パークアンドライドを導入したり、J R大津京駅からプロムナードを整備したり、工夫できると良い。また、大津京駅だけでなく、びわこ浜大津駅や大津駅ともつながることで、まちも潤い、都心の再生が進むことが期待される。
- ・ これから先のことを考えると、自動運転が当たり前となり、自動運転バスが高頻度で循環するようなことも想定される。そうすると、普段利用の駐車場はほとんどいらなくなると考えられる。一方で、これだけのスポーツ施設があると、年に数回のことではあるが、大会時等は、かなりの駐車場が必要となると想定される。いろいろなバランスを見て、駐車場のあり方を検討することが必要である。
- ・ 野球場や陸上競技場があるため、多くの人が来場する機会がある。そうした時に、きちんと建物の良さを感じてもらえるものができるとうい。
- ・ 試合がなくても来てもらえるような公園になると良いが、そのためには、庁舎だけが浮かないように、公園・施設・庁舎が連携して機能することが必要である。そのために、必要な機能についても議論できると良いのではないか。例えば、庁舎にシャワールームがある等も魅力とならないか。
- ・ テニスコートを見学した際、多くの人が利用されていたが、休憩スペースがなく、居心地が悪そうだった。特に夏の時期は影になるところがなく、小さな駐輪場のようなどころの下だけしか影になるところがない。
- ・ 庁舎の配置や機能の配置を検討するためにも、スポーツ施設の動線について分析が必要。その中で、庁舎のオープンなエリアがうまく機能するように、配置や機能を検討できると良い。また、大会時の交通動線も重要で、かなりの駐車場利用が想定されることから、動線が重ならないように検討しておきたい。
- ・ 野球場や陸上競技場を利用して、そのまま駐車場に戻って帰るのではなく、庁舎の広場に立ち寄ることが自然になるような、庁舎・公園ができると良い。
- ・ 高校生が気軽に過ごせるような場所になると良い。まさに、石坂線が、高校生等の移動手段として機能しているように、そうしたスポットができると良い。Free-wifi やコンセントがあると、自然と若者は集まってくる。どういう人に来てほしいかという視点で機能を考えることも重要である。
- ・ 通っていた高校の近くに神宮外苑と赤坂離宮があった。部活動や授業で利用していたこともあり、いまでも、日常の風景として記憶に残っている。何気ないことでも、子ども達の

記憶に残る風景を創ることができるが良い。就職などで外に出ても、いずれ大津に戻ってくることにつながるのではないか。

- ・ どの自治体も、子育てに対する支援に力を入れており、乳幼児・児童の居場所（あそび場）は充実してきているが、中高生の居場所がない。図書館ですら自習禁止のところがある。
- ・ いまは、スタバに行ってお金を払って勉強している子どもも多い。本来であれば、無料で勉強できることが健全であり、そうした場を用意することが重要である。
- ・ 立命館大学茨木キャンパスでは、キャンパスの一部を市民に開放しており、よく、親子が利用している。また、茨木市では、子育て支援に力を入れており、最近できた文化・子育て複合施設「おにクル」は大変賑わっている。しかし、来場しているのは、親子だけでなく、中高生、シニアも多い。親子が中心ではなるが、いろいろな世代の人々が集まる施設になると良い。
- ・ ビワイチは重要なコンテンツ。拠点が大津にあるが、ここにも立ち寄ってもらえるようなことができるとよいのではないか。

7 その他

8 閉会

以上